

# 広報 やまの

## 祝 平成31年南砺市成人式



No. 122  
2019.3.20

南砺市山野公民館  
〒982-0204 南砺市飛騨屋20  
TEL 0763-82-4510

## ご成人

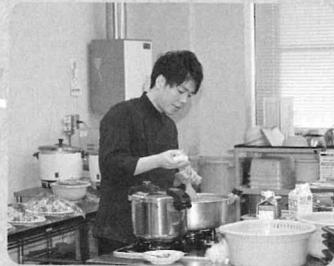
### おめでと〜うございませす

南砺市井波地域成人式が1月13日(日)午前10時より、井波総合文化センターメモリアホールで開催されました。

井波地域出席者76名のうち山野地区は9名でした。式典後の「新成人の集い」では、山野からは守山翔梧さんと藤元瑞季さんが「二十歳の抱負」で新成人としての決意を述べられました。「小学校・中学校の思い出」では、土田将大さんが恩師へのマイク渡し役をされて場を和ませるなど、実行委員として事前準備や当日の進行に尽力されました。

東京のフレンチレストランで修業中の守山翔梧さんは、記念撮影後の「新成人による同窓会」で料理の腕を揮われ、幼いころからの夢であったシェフの姿を披露されたのが印象的でした。

皆さんの晴れ晴れとした横顔には新成人としての喜びがあふれているようにも感じられ、輝かしい門出をお祝いし、前途に幸多いことをお祈りします。



## 新成人になって

守山翔梧



この度、無事に成人式を迎えることができました。

僕は今、上京して池袋の「パリの朝市」というフレンチレストランで働いています。

昔からずっと夢だったコックさんになれました。

でも、料理人はとても過酷な職業で、誰からも仕事を教えてもらえず、先輩たちは厳しく、毎日怒られ嫌がらせをされました。一緒に入った同期はみんな辞めて、自分も何度も辞めようかと迷いました。でも、そんな先輩に負けたくなくて、毎日食らいついて仕事をとったり、毎日16時間以上働いたりしていました。

努力している内に、6ヶ月でシェフに認められて、メインディッシュをさせてもらえるようになりました。

僕のことを認めて一番大事なポジションを任せてくださったシェフや、僕を信じて上京させてくれた家族にはとても感謝しています。

その恩を返すためにも、自分の店を持つという新しい目標ができました。もっと努力して28歳までには叶えたいと思います。



## 成人式を迎えて

光主 まどか



はじめ、友人やたくさんの先生方などすべての方々  
この度、無事成人式を迎えることができ大変嬉しく思います。ここま  
で見守り支えとなってくれた家族を

に感謝しています。

私は今、大学で看護の勉強をしています。専門的な知識・技術を習得するため日々勉学に励み、仲間と切磋琢磨し合っています。臨地実習は予想以上に辛く挫折しそうになることも多々ありますが、貴重な体験をさせていただいていることに感謝して前向きに取り組んでいます。特に最近は臨地実習が増え、命を扱うということの責任の重さを以前より実感するようになりました。また、日常生活においても責任を持った行動を求められることが増え、日々常識やマナーの身に着け方を勉強しています。成人を迎えた今、大人として認められたのと同時に、今まで親や先生方に頼っていたことを自分で成し遂げる必要があります。そのため、成人として自覚を持ち、立派な大人になれるよう学生生活や日々の生活を大切にしていきたいと思えます。そして成長した姿を見せ、親孝行をしたいと感じています。



山野老人  
クラブ

# 老人クラブが地域の 現在と未来に貢献するために

山野老人クラブ長寿会会長 南 眞 司



超高齢化し、少子化から若年人口が急速に減少する山野地区で、平成31年4月から住民自治として、多くの地域課題に取り組む「山野地域づくり協議会」が発足します。高齢者の課題として、虚弱高齢者や独居・老々世帯へ、介護予防や日常生活の支え合いが求められます。

長寿会は平成30年度、山野地区7単位老人会では困難な活動を支援し、上部老人会組織と重なる行事の見直しを行いました。「県内研修旅行」と「追悼法要」は単位老人クラブで行うため、長寿会は中止しました。山野体育祭と重複する「井波老連シニア体育祭」は、7単位老人会の総意として不参加を決めました。又、公民館の文化祭と地区社協の敬老会の同時開催など行事の見直しが行われました。

これらは全て、今後求められる地域課題の解決に取組むための準備です。我々高齢者にとって大切

なことは、楽しく安心して暮らすために、顔の見える集落で介護予防や日常生活の支え合い活動を行うことです。具体的には、2年前に山斐布袋会で開始した「週一運動サロン」を、各単位老人会に広めることが大切です。この介護予防活動を通して、お互い様で支え合う温かい集落への一歩が踏み出せます。長寿会としては、「通所型サービズB」などの構築と運営を通し、要支援などより虚弱な会員へ温かい支援をすべきです。

長寿会の皆様が支え合いながら幸せに暮し続けることが、次世代の住民の目標となり安心にも繋がります。山野地域づくり協議会と協力し、多くの

会員がまちづくりに参加すること、山野地域が住民にとつて愛着と誇りが持てる故郷になることを願っています。



# 高屋古宮の大杉と用水

公民館長 森 井 孫 俊



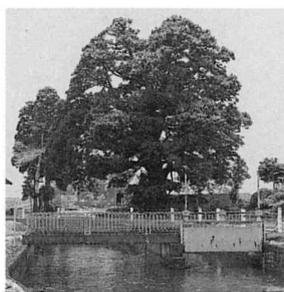
どっしりとした風貌で聳える高屋古宮の大杉は、村はずれの高屋神明社跡地にある。のびのびと大きく枝を張り、樹形がかぶらと似ており、根元もかぶらの様に太いことからかぶら杉とも、また独立樹であることから一本杉とも呼ばれている。樹高20・6m、幹周り533cmで樹齢500年以上の巨木である。腐食や空洞はなく樹勢は旺盛で、樹根は三つの用水を潜り、対岸の水田下まで伸び、用水から水の供給を受けている。

格好のスキー場であった。明治7年までこの地にあった旧高屋神明社は、岩武用水と分水地間の土居に建てられていて、鎮守の森も土居上にあつた。土居から生贅と思われる馬の全身骨が見つかっている。鎮守の森が一本杉となつたのは、遷座の際に多くの木は神社新営の用材に伐採され、大杉だけが残つたからと伝えられている。

大杉は高さ約3mの小高い丘の頂上付近に聳え、孤島に立つ巨木の様である。以前はこの一帯は雑木が茂る丘陵地で、畔(くろ)と呼ばれていた。地名の高屋字江源が示すように、野尻野口用水が6本の用水に分かれる分水地であつた。用水には土居(どい)と呼ばれる堤が築かれていたが、長年の江浸による土砂の蓄積で2ヘクタール余りの帯状の小高い丘陵地となつていて、土居山と呼ばれ少年達の

昭和28年に竣工した用水改修で野尻野口用水は二万石用水に合流し、新たな宮川用水への分水場が作られたので、分水地は廃川跡となつた。その後開墾され、大杉のある土居を残して丘陵地は姿を消した。さらに圃場整備事業で過去の面影はなくなり一面の水田が広がっている。

大杉は500年もの間、土居の上から樹下の水面を見守り続けてきた。これからも分水場の守り神としてこの地に聳え続けるであらう。



移住体験ツアー一挙二重

「南砺をまるっと移住体験ツアー」子育て編

山野地区集落活性化協議会 西村 一郎

今回で15回目の移住体験ツアーを昨年引き続き、2月9日に山野地区で受け入れました。今回は東京都から3家族11名、神奈川県から親子2名、茨城県から親子2名の5組の家族計15名の参加でした。都会の窮屈感や待機児童等に不安があり、ツアーに参加したこと。特に5名のお子さん(下は3歳上は12歳)の大家族については、子供の将来を見据えて田舎暮らしをしたいとの思いが強く感じられました。当地区では、歓迎



の横断幕を掲げ、地区の関係者が公民館前で迎えました。館内に入り参加者の自己紹介と参加の経緯を

聴き、次に交流食卓のメニューの一つのサトイモおはぎ作りをお子さんと体験しました。子供さんがすりこぎで潰すのが楽しいらしく、賑やかに作って食卓に乗せることが出来ました。食卓では5卓のテーブルに家族ごとに分かれ、自治振興会、社協、中核農家他沢山の地区の方を交えて、いも工房に調理していただいた郷土料理を食しました。特に「かぶらずし」「いとこ煮」「おぼろ昆布で包んだ富富富のおにぎり」などは初めて口にする家族ばかりで、美味しさと感嘆の声が上がっていました。今年坪野地区に移住を決め、住居を新築予定の方のお話を聞くことも出来ました。食事終了後南砺市、山野地区の概略を説明し、バスに



て山野地区を廻り、一軒の空き家を紹介しました。瞬間に時間は過ぎ、再会できることを期待して次の会場へ見送りしました。後日暮らしません課の担当者からは皆さん楽しく過ごされ無事に帰路に就かれたとのことでした。また、違った季節に再度来て移住を決めたい参加者がおられるとのことでした。歓迎会に参加された方、お疲れさまでした。今後この様なツアーを開催し、空き家の活用、人口の増加などの地区の活性化に繋がればと思います。



今後この様なツアーを開催し、空き家の活用、人口の増加などの地区の活性化に繋がればと思います。

一年間宜しくお願いします

平成31年度 役員紹介

山野町内会長協議会

専勝寺	高屋	清水	安室	軸屋	野能原	飛騨屋	岩屋	山斐	坪野西部	坪野中部	坪野東部	監事	会計	副会長	会長
川原忠史	吉田達雄	磯辺正博	松長幸治	吉田正晴	長谷川義晃	大野哲朗	松川毅	木下美一	西村精志	藤原孝志	平野博文	藤永隆夫	吉田正晴	松長幸治	磯辺正博

山野壮年会

安 軸	野 能	飛 驒	岩 屋	山 斐	坪 野 西 部	坪 野 中 部	監 事	会 計	庶 務	副 会 長	会 長
室 屋	原	屋	屋	斐	部	部					

武 田 信 夫	稻 垣 清 人	往 藏 智 朗	長 谷 川 秀 伸	斉 藤 尚	杉 森 茂	太 田 明	岩 崎 修	米 倉 康 則	山 崎 健 一	清 原 久 明	畑 久 二	水 野 敬 一	田 中 豊 明	藤 原 孝 志	武 田 信 夫	藤 元 茂 雄	稻 垣 清 人	高 田 毅	長 谷 川 秀 伸	嶋 喜 彦	村 岡 裕 一
---------	---------	---------	-----------	-------	-------	-------	-------	---------	---------	---------	-------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	-------	-----------	-------	---------

山野老人クラブ長寿会

吉 田 文 代	斉 藤 和 照	高 田 かおる	松 川 禮 子	川 原 和 美	斉 藤 和 照	前 川 洋 子	磯 辺 正 博	川 原 和 美	長 谷 邦 威	長 谷 真 由 美	松 本 孝 雄	柴 田 和 夫	松 長 修 一	磯 辺 正 博	西 村 一 郎	津 田 吉 男	藤 元 茂 雄	高 田 毅	村 岡 裕 一	嶋 喜 彦
---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	-----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	-------	---------	-------

児童クラブ育成連合会

副 会 長 大 浦 靖 之  
田 村 慎 治

母親クラブ

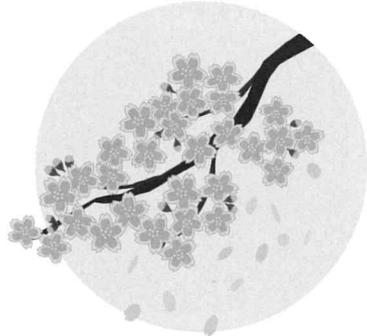
副 会 長 高 橋 智 絵 里  
田 村 数 枝

山野児童クラブ育成会

副 会 長 大 浦 靖 之  
田 村 慎 治

山野青年会

鎌 匠 志	澤 田 直 樹	永 井 龍 大	往 藏 龍 太 郎	柴 田 将 成	藤 井 公 嗣	棚 田 忠	南 眞 太 郎	大 野 弘 毅	野 村 由 紀 子	高 橋 宜 之	藤 坂 美 由 紀	田 中 健 二	高 橋 智 絵 里
-------	---------	---------	-----------	---------	---------	-------	---------	---------	-----------	---------	-----------	---------	-----------

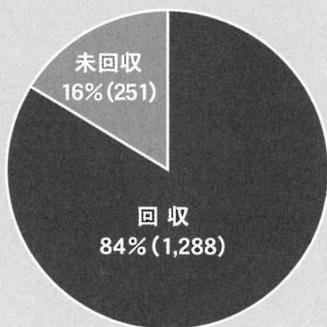


# 山野まぢづくり アンケート

南砺市では平成31年4月から「小規模多機能自治」による地域づくりが推進されます。その実施に向け、山野地区の皆さんが日頃感じておられることやご意見を広く取り入れるため、地区住民の中学生以上を対象にアンケート調査を行いました。

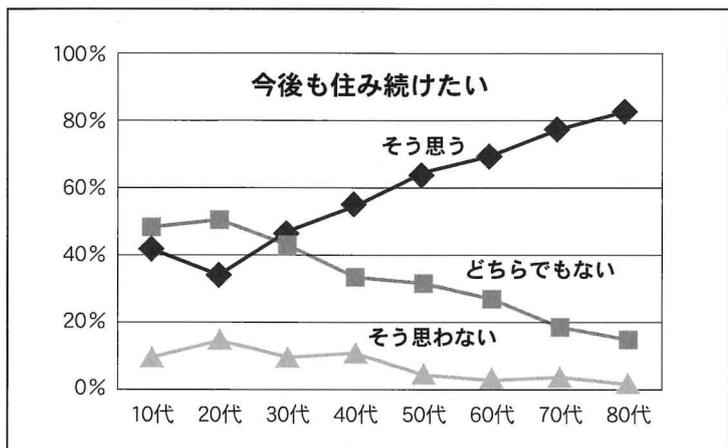
今回のアンケートについては、回収率が84%となりました。また、今回のアンケートでは1戸1枚ではなく、中学生以上全員に1人1枚とすることで、今まで参画の機会が少なかった女性や若い世代の意見も多く集計されています。

アンケート配布総数1,539通



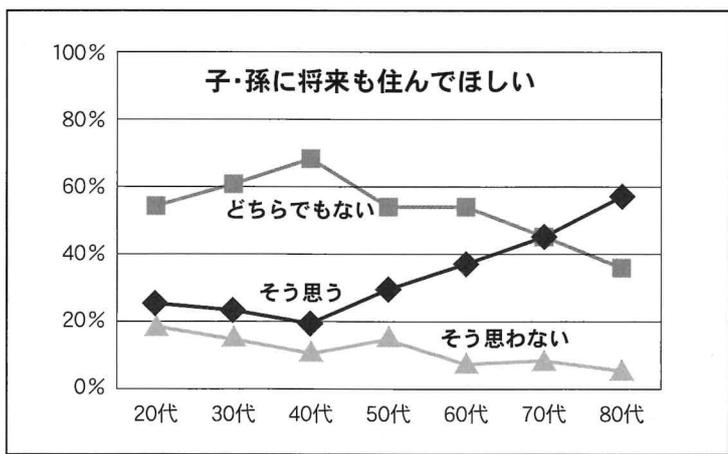
## 今後も山野地区に住み続けたいですか？

◆ 今後も山野地区に住み続けたいと思われの方が多数でした。また、年代が進むにつれ住み続けたいと思われの方が増加しています。10代から30代にかけて「どちらでもない」と答える方が多くみられます。若い世代が住み続けたいと感じ、大学進学等で山野地区から一旦離れても、また戻りたいと思わせる地域づくりとその働きかけが必要と考えます。

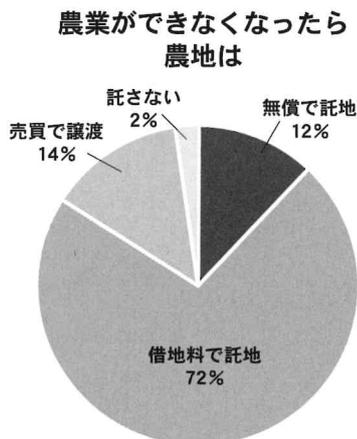


## 子や孫に山野地区に住んでほしいですか？

◆ 前問同様に、子や孫にも山野に住んでもらいたいと思っておられる方が、年代が進むにつれて増加しています。20代から30代では子どもの将来設計が定まっていない事もあってか、「どちらでもない」が多く回答されています。生まれ育った地域に残る、地域に戻るといった意識を醸成するための環境整備に地域で取り組むことが必要と考えます。



## 自分や家族で農業ができなくなったら農地は？

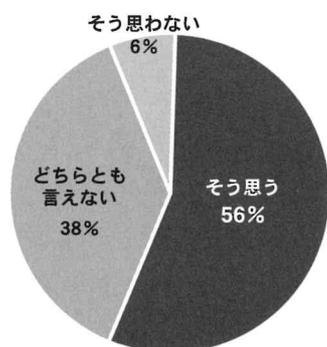


◆ 農地に対する愛情が強く、自分で農業が出来なくなっても耕作放棄地にはしないといった意識が伺えます。

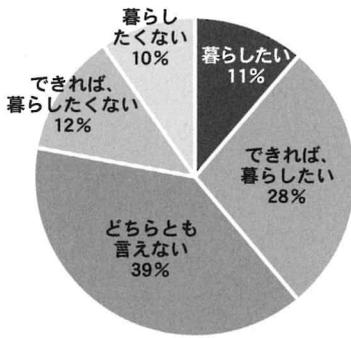
◆ また、農地は手放さないという意見が多数であり、貸し手と借り手とのコーディネートが農村環境の保全に重要と考えます。

## 若者・女性等のまぢづくりへの参画は？

若者・女性のまぢづくりへの参画



将来山野で暮らしたいですか  
(中・高・大)



◆中学生・高校生・大学生の回答ですが、「暮らしたい」「できれば暮らしたい」と思っている割合が39%となっております。まだ将来が定まらない中で、これだけの割合が将来山野で暮らしたいと考えてくれているのは山野にとって非常にうれしいことです。子どもたち一人一人の思いを実現させる、具体的な取り組みが求められています。

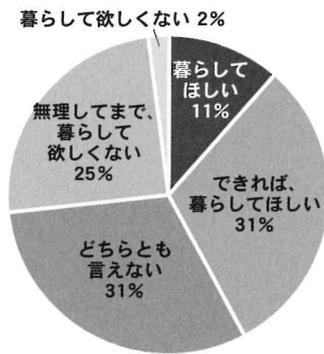
将来山野で暮らしたいですか？

◆これからのまちづくりには若者や女性の参画が必要と考えられる方が過半数です。山野地区の課題や対応策を検討する上でも、若者や女性の参画が必要です。さらに、その活動が見えることで、より地域のニーズに合った変化が期待できます。

将来山野で暮らして欲しいですか？

◆子どもたちの回答に比べわずかでは有りますが、「山野で暮らして欲しい」と願う親御さんが多くなっています。また、子どもたちの回答に比べ「暮らして欲しくない」「無理して暮らして欲しくない」の割合が多くなっています。子どもも人生を親が全て決められる訳ではありませんが、暮らして欲しくない要因を解明し、親が自信を持って暮らして欲しいと願える山野のまちづくりを目指しましょう。

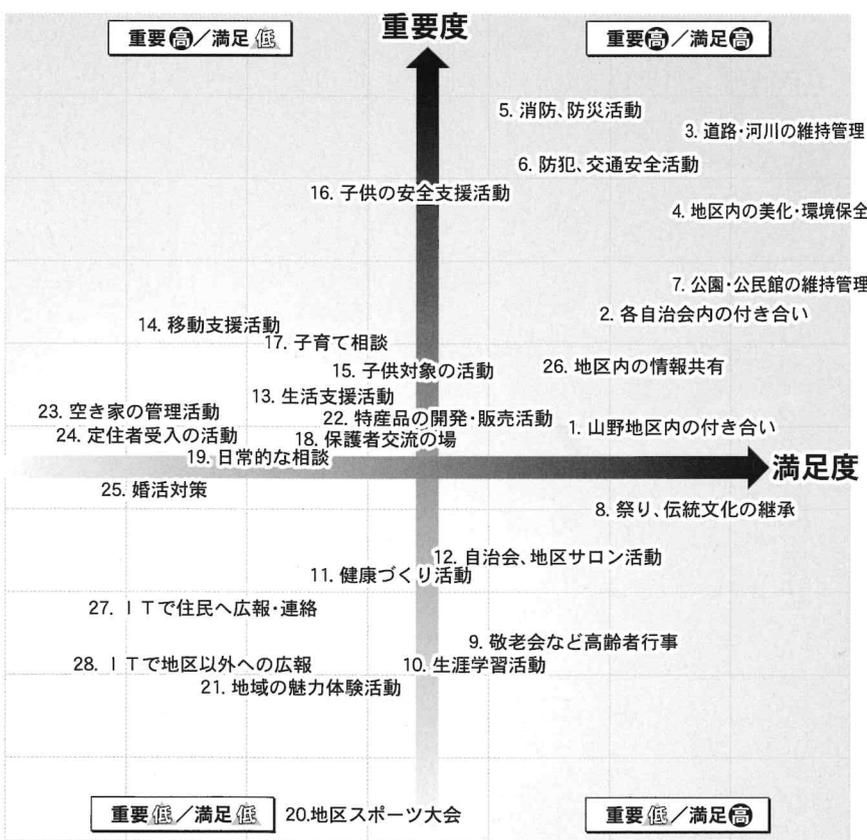
将来山野で暮らして欲しいですか(親の思い)



山野地区に対する満足度・重要度

◆山野地区の活動や事業について、満足度・重要度のアンケート結果を得点化し散布図で表しました。「重要度が高いが満足度が低い」項目

山野地区の活動・事業の重要度と満足度



これからに向けて

◆今回、ご報告させて頂いたアンケート結果は、掲載スペースの都合上、大がこれからのまちづくりの課題になると考えられます。山野地区では、子育てに関するもの、自分で車が運転出来ない方等の移動支援、空き家の管理も含めて定住者(移住者)受け入れなどが課題と思われれます。

◆今後取り組まれる小規模多機能自治体において、地域の課題を検証し、共有することは重要と考えます。機会をみて、アンケートの全貌について、山野の皆さんにお配り出来るよう冊子の作成も検討しております。

◆切と思われるいくつかの項目のみ紹介させて頂きました。また、この他に自由記述欄にたくさんの方の貴重なご意見・ご提言をいただきました。

第43回

防火ポスターコンクール表彰者

主催 南砺市消防団山野分団



小学生低学年の部  
銅賞 越山蒼斗



小学生低学年の部  
銅賞 木村百花



小学生低学年の部  
銀賞 金田龍樹



小学生低学年の部  
銀賞 大谷吉乃



小学生低学年の部  
金賞 小嶋康生



小学生高学年の部  
銅賞 大谷日葉里



小学生高学年の部  
銀賞 松川 楓



小学生高学年の部  
銀賞 松田侑佳



小学生高学年の部  
金賞 金田奈樹



小学生低学年の部  
銅賞 磯辺悠花



中学生の部  
銅賞 上田優里香



中学生の部  
銀賞 野村妃希



中学生の部  
金賞 竹原彩乃



小学生高学年の部  
銅賞 野村拓未



小学生高学年の部  
銅賞 加藤あい



保育園の部

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 銅賞       | 銀賞       | 金賞       |
| 越山蒼斗(小二) | 大谷吉乃(小二) | 小嶋康生(小二) |
| 木村百花(小二) | 金田龍樹(小三) |          |

低学年の部

- |          |          |         |
|----------|----------|---------|
| 銅賞       | 銀賞       | 金賞      |
| 越山知花( )  | 上田美悠香( ) | 大谷馨子( ) |
| 中山彩実(年中) | 田村優大(年少) |         |

保育園の部

- |           |          |           |
|-----------|----------|-----------|
| 銅賞        | 銀賞       | 金賞        |
| 上田優里香(中一) | 野村妃希(中二) | 竹原彩乃(中三)  |
| 野村拓未(小六)  | 加藤あい(小六) | 大谷日葉里(小五) |
|           |          | 松川楓(小六)   |
|           |          | 松田侑佳(小五)  |
|           |          | 金田奈樹(小六)  |

高学年の部

編集後記

大雪に悩まされた昨年と打って変わって暖冬だった今年は、足元の良い日が続き、除雪作業も少なくて本当に助かりました。春はすぐそこまでやって来ているようです。春と言えば新しい年度が始まり、新入学や新生活などとかく心躍る季節です。それに加えて、あと二か月で『平成』が終わり、新しい元号になります。どんな元号になるのか少し楽しみです。10月の消費税増税など私たち主婦にとっては気が重い話もありますが、新しい時代に期待しつつ、心新たに日々充実したものにしていきたいと思えます。  
(母親クラブ)